



OffTime

オフタイム

遺品整理専門会社キーパーズ代表取締役

吉田 太一さん インタビュー

【天国へのお引越しのお手伝い】をされている吉田さんにお話を伺いました。

★ 遺品整理業とはどのようなお仕事ですか？

亡くなった人の家財道具を遺族の代わりに整理し、形見を届けたり処分したりする仕事です。また、ご遺族の希望があれば、故人の思い出があったであろう品をお預かりし、遺品供養も無料で行います。

★ この仕事を始められたきっかけはどのようなことでしょうか？

引越しセンターやリサイクルショップを経営していた時期に、ある50代の姉妹から配送の依頼を受けたのですが、室内には大量の家財道具が残されていました。尋ねると、今からリサイクルショップや便利屋さんを探すとの事でしたので、私が全てお受けしますと申し出たのです。すると、とても喜ばれ「このタイミングで全て受けてくれる人は神様に見える」とおっしゃったのです。よく部屋の中を見ると遺影と骨壺がある事に気付き、ひとり住まいだったお父様の遺品の整理で困っている方だと気づいたのがきっかけでした。

★ 仕事はどのような気持ちで取り組まれていますか？

遺品整理サービスを日本で始めて創業したパイオニアとして、常に誇りを持ち、客観的な目線で、ご遺族にゆとりと感動を提供できるプロでなければいけないと思っており、ぶれることなく遺品整理の教科書のような存在であり続けなければならないと考えております。

★ 講演会などの活動はどのようなお気持ちで取り組まれていますか？

遺品整理の現場で実際に見聞きし体験したことが、自分自身にとって大きな学びとなっています。そのことを多くの方にお伝えし、より充実した人生を送ることや、最後まで人間関係を保ち社会から孤立したくないという強い気持ちを持ってもらいたいと思っております。

★ 今後、どのような活動をお続けになりますか？

講演や著作も社会が望んでくれるのであれば、積極的に取り組もうと思っています。また、自らの死後のことで悩んでいるひとり住まいの方々の相談や話し相手も続けようと思っています。無償訪問ですので限度はありますが、お話の中で学ばせてもらったことを世間に還元し皆で共有できれば良いと思います。

★ ご多忙の毎日、ご自身のリフレッシュタイムはお取りになれますか？

もともと自立願望が高く、しがらみのない状態を意識してきましたのでストレスはほとんどないですね。一年中講演などで全国を周り日々友達が増えていることがとても楽しく自分にとっては休日やリフレッシュをする必要は感じないんです。

★ ぶっくまーくを通して、読者に届けたいメッセージは？

もし年を取り一人暮らしになっても、自立心は必要ですがあまり遠慮しながら、質素に静かに暮らさないで下さい。多少わがままでもいいので他人が見て楽しそうな生き方を意識してください。



吉田 太一さん

大阪市生まれ。日本料理の板前を経て、運送会社に勤務。28歳で引越運送業を始め、「ひっこしやさんのリサイクルショップ」を開業。2002年、日本初の遺品整理専門会社「キーパーズ」を設立。8,000件以上のご遺族からの相談を受ける。ご遺族からのお言葉を大切に、遺品に特化した「気の利くサービス」を提供。マスコミから大注目を集める。本業以外に「孤立死」を防ぐための対策として、DVD制作や講演活動などを精力的に行っている。

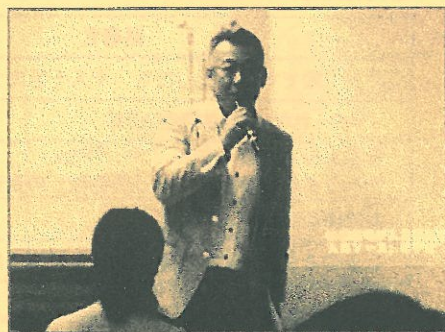
キーパーズ公式サイト:www.keepers.jp

私の遺品
整理屋の
事前相談



2011年 幻冬舎
[1100-3]

吉田さんの著書。
閲覧・貸出しが可能です。



男女共同参画センターでの講座風景